

風紋

浜岡砂丘

おいしいレシピ

新型コロナウイルスに負けないように、食事でできることは、日頃から免疫力を高める食材で病気になるにくい身体作りです。今が旬の新玉ねぎを食べて血液サラサラで免疫力をアップし、更に新陳代謝と疲労回復にも期待して健康な身体作りをしましょう。

新玉ねぎのサラダ



材料 新玉ねぎ…1個
白だし…大匙1
ごま油…大匙1
かつおぶし…お好みで

作り方

- ①新玉はスライサーで薄くスライスし5分ほど水にさらす
- ②ボウルに水気をしっかりと絞った新玉、他の材料をよく混ぜ合わせてお皿に盛り付け、仕上げにわけぎ又はあさつきを散らして出来上がり

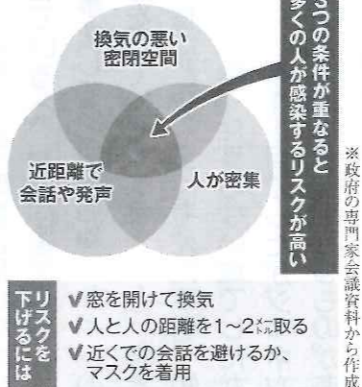
新型コロナウイルスについて

二月頃より毎日のようにテレビで取り上げられ、感染者数も残念ながら収まる見込みがありません。マスクや、消毒液の不足が日常的な問題として取り上げられています。近年ではありえないほどの事態に、他人事ではないということも日々感じます。県内でも感染者が発生し、普段の行動にもより一層注意が必要となります。自分自身が感染者とならないためにも次の場所は避けましょう。

【感染しやすい三密】

- ・換気の悪い「密閉空間」
- ・大勢の人が「密集する場所」
- ・間近で会話する「密接場面」

新型コロナウイルス多くの人が感染したケースは…



新年度工事に向けて

取締役 土木部長 藤原茂伸



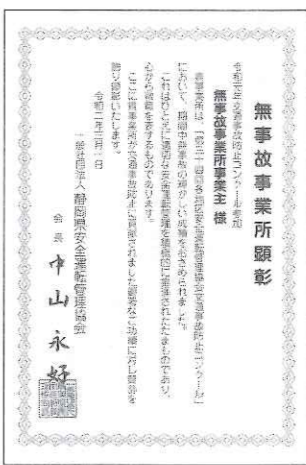
令和元年度の受注工事もほぼ完成となりました。大きな事故もなく完成を迎えることができましたのは関係業者の皆様のご協力のおかげだと思います。

大きな事故こそありませんが、残念ながら物損等の事故は毎年少なからず発生しています。埋設管の損傷、架空線の切断等がそれにあたります。弊社では独自の取り組みとして、受注工事のすべてにおいて現場内の危険箇所を網羅した「ハザードマップ」の作成・掲示を徹底しています。しかし、作成・掲示だけでは意味がなく、どのように現場従事者に周知徹底するかが課題ではあります。今年度工事では、安全施工にさらに重点を置き施工を行っていきます。

話は変わりますが、皆様もご存じのとおり世界的に新型コロナウイルスが猛威をふるっています。弊社でも通常業務は行っていますが、休日・休暇時の外出についてはなるべく控えさせ、やむなく県外等へ出る場合は行き先を確認し、対応を取るように行っております。又、この状況により工事の関係も変化は出てくると思われまます。令和二年度は厳しい年度になると思いが、課員はもちろんのこと、会社全体として乗り切れるよう頑張つてまいりますのでよろしくお願い致します。弊社では民間工事にも力を入れていきます。些細なことでも結構ですので、連絡をいただければお伺いし、提案・お見積もり等をさせていただきますので、お気軽に声をおかけください。

交通事故防止コンクール

昨年十月から十二月末まで実施された交通事故防止コンクールにおいて無事故を達成しました。今後も継続してまいります。



5月安全努力目標

年度安全標語 みんなが考え みんなで実行 全員参加の安全活動

- 作業安全**
 - ・作業エリアの確実な明示
 - ・工具、器具の作業前点検を確実に
- 交通安全**
 - ・適正なスピードと車間距離の確保
- 環境目標**
 - ・退席時に電灯等の電源OFFを行いましょ

行事記録

- 3/27 越南受入社内研修会
- 御前崎市商工会総務委員会・理事会
- 3/3 御前崎市建設業組合役員会
- 3/5 御前崎市市長・市議会議員告示日
- 3/6 春の全国交通安全運動出陣式(中止)
- 3/15 春の全国交通安全運動
- 3/16 袋井建設業安全祈願祭小国神社(規模縮小)
- 3/17 御前崎市市長・市議会議員投票日
- 3/18 御前崎市商工会サイドピクニック(中止)
- 3/21 シーナック安全衛生協議会(中止)
- 御前崎市商工会総務委員会・理事会
- 3/22 中電不動産(株)第一回安全会議(中止)
- 法人会青年部会通常総会掛川(中止)
- 3/23 袋井建設技術者講習会(延期)

行事予定

- 3/15 土木施工管理技士会定時総会静岡
- ※コロナウイルス感染拡大防止のため、中止または延期になる場合有り

ゴールデンウィーク休暇のお知らせ
四月二十九日(水)～五月六日(水)

発行 増田組
TEL 0537-81-1324
FAX 0537-81-6675
Email masudagumi@mail.wbs.ne.jp
URL http://www.masudagumi1912.co.jp

新年度の抱負

取締役 建築部長 植田幸男



令和元年度は、公共工事の他、新東名サードエリア等の新規民間工事への挑戦の年でもありましたが、協力会社の皆さんのおかげで無事完成することが出来ました。新規工事においては、提出書類・施工会社の選定・工事施工方法・工事中の規制など難しい面もたくさんありましたが、工事担当者の知識と施工能力の向上には十分な成果が得られたと思います。今後も新規工事の情報収集に努め、受注につなげていくつもりです。

新年度を迎えてから、一ヶ月が過ぎようとしています。現状は緊急事態宣言が全国に発令され、先が見えない状況が続いています。本年度の建設業における発注状況は、大変厳しくなるかもしれません。しかも建設業界の状況は、建設技術者層の高齢化・若年就業者の減少という人材不足が顕著です。新しい人材を迎えるためには、社員全員が協力して個人の知識・技術の向上を図り、会社全体の付加価値をあげ、人材育成の環境を整えることが大切です。また協力業者の皆さんと共に施工体制を整え、工事の施工と共に就業者の定着に努めます。

外国人技術者 受入研修

新年度から外国人技術者を受け入れることになり、先んじて全職員を対象とした外国人労働者受入研修を、「協同組合マンパワーサポート・はままつ」吉田茂代表理事を講師にお招きして行いました。



今回の研修では、生活習慣や文化の異なる外国人の特徴や接し方をお話しして頂きました。

- その中で必要最低限の努力が三つありました。
- 一、「自社の為に海外から働きに来てくれている」という感謝の気持ちを持つこと
 - 二、相手国の文化・習慣を理解すること
 - 三、日本語の壁を自ら壊すことでした。

注意事項としましては、言葉によるトラブルが多いようです。例えば、中国の尊敬語である「老子」という言葉は日本語で直訳すると「おじいちゃん」となり、誤解が生まれるケースもあるそうです。育ってきた環境や文化の違いから、日本人の感覚や考え方とは、違いがあり、その違いを理解することが大切なことなのかと思いましたが、



会社にて定着してもらい、共に働いていくためにも彼らというものを理解するよう努力していきましよう。

新型コロナウイルスの感染拡大が日々深刻化しており、不安が募る毎日ですね。ベトナムより四月から入社予定だった仲間もこの影響でまだ来日することができていません。感染経路が不明の感染者が増え、いつどこで誰が罹ってもおかしくない状況です。一日も早く終息する日が来るように不要な外出は控えるなど、一人ひとりが自覚を持って行動しましょう。

新しい仲間と笑顔で会える日が一日も早く迎えられるように…願いながら、第三回目の今回はベトナムの民族衣装について調べてみました。



ベトナムの民族衣装として知られるアオザイは、正装として着られている民族服です。アオザイの「アオ」とは、上衣の一つといっ

意味を持ち、「ザイ」は、ベトナム語では長いという意味を持ちます。アオザイの起源とされているのは十八世紀頃の清朝より伝わったチャイナドレスのようです。本来は絹で作られ厚みがある衣裳でしたが、ベトナムの土着のゆつたりとした長衣の影響を受け、また気候にも合っているために薄絹や麻が使われるようになったそうです。

ベトナムは高温多湿の気候なので、上衣には吸湿性があり肌触りの良い木綿を二重仕立てで作られることが多いです。また、下衣である長ズボン(クワン)には、薄い生地で光沢があり透け感のある絹や人絹が素材として使用されることが多いそう。アオザイは結婚式や卒業式などの式典に着たり、仕事の制服にしている会社やお店もあるそうです。

- ▼「ベトナム語講座」
- ★さつぷらー「シン・タン・ビエツ」
Xin tam biet!
- ★じゃあまたねー「ヘン・ガップライ」
Hen gap lai!

おらんに どうぞ



鈴木百代

シャネット・レイシターと初めて逢ったのは私が十代の終り頃でした。彼女はサンフランシスコの中流家庭に生まれ、両親と弟の四人家族という家庭に育ったアメリカ人の女の子でした。誕生日に父親から贈られた一冊の本で日本を知り、いろいろ調べているうちに日本への興味と憧れが膨らみ、とうとう「禅の勉強をしたい」と両親を説き伏せ、日本へやって来たとのこと。老夫婦の住む古い民家の一室を借り、時折、彼方此方の禅寺へ行っては座禅をしたり、説法を聴いたりしていました。借家に訪ねて行くと、庭掃除をはじめ風呂やトイレの掃除・食事の後片付け等々、慣れないことを不服そうに顔もせず、むしろ楽しんでやっています。古い家でしたからトイレは水洗ではないし、台所での洗い物も冷たい水でしていました。彼女から聞くサンフランシスコの生活は当時の私にとって、快適な羨ましい限

りの生活なのに不思議に思いながら話していると、彼女は言うのです。「食事をしている刻も禅、トイレの掃除をしている刻も禅」と。禅という私にとって全く考えた事も、知りたかった事もない域でしたから唯々、意味不明でしたがシャネットの話には何か、感じるものがありました。又、シャネットは日本の女の子は誰もが着物を着ることができ、花を生けたり茶の湯を嗜むと思っているようでした。「そんな事はないのよ」と、何故か私は否定することができなかったのです。私の周囲にはシャネットの思い描く日本の女の子は一人も居なかったのに彼女に現実を知って欲しくなかったのが、日本の女の子を自慢に思っていたのか…。否定できなかった気がしたのか…。否定できなかった気がしたのか…。否定できなかった気がしたのか…。

問題クリアする為、私は茶道教室に入門することにしたのです。もつと秋彼岸というのにずいぶん暑い日でした。茶道の知識など皆無な私は、デニムの上下服に彫金のアクセサリーを製作していた友人の試作品を首や手首、指にもつけ、伸ばした爪にはマニキュアを塗り、といういでたちで師匠と初対面をしたのです。「お茶は、初めてですか、それでは先ず一服召し上がって下さい。お菓子を食べたあと、抹茶をどうぞ。でもその前に腕輪や指輪は外した方がいいですね。お茶盤に当たって粗相があるといけませんからね。ホラ、私も何もしていないでしょ」そう言って広げて見せた両手は、細かい所にも気がつき、いつも手まめだった祖母の手によく似ていました。師匠のその手で点てられた抹茶を前にして、どうしてよいのか迷っている、「作法は気にしなくていいから、ゆっくり召しあがれ」と言われ、緊張もほぐれ、口にした初めての抹茶、それは想像外の美味しき、そして半世紀を経た今も、決して忘れることのできない一服でした。

つばき

総務部 山下真由子



以前、オランダ人女性と一緒に過ごしたことがあります。彼女は半年ほど西日本を旅し、生活は専らキャンプ場及び施設でボランティア。移動はヒッチハイクでお金は必要最低限使用するだけ。それでも日本の文化や自然を大いに満喫し自由きままな旅をしていました。

私は一緒に過ごす中で彼女の人間性や考え方に触れ、言葉や文化は違えど、同様な考えを持っていること、発想力豊かで行動力があること、また彼女という他の外国の方と交流する機会もあり、個人行動の多い彼らに共通することは、頭の回転がすこぶる速く物怖じせず笑顔が絶えないこと。それらを垣間見てたどりで着いた考えは結局、国が異なっても人は繋がっているのだと感じました。今も彼女とは連絡を取っています。

今後入社されるベトナムの方も民族性の違いはありますが、互いを知ることで身近に感じることが出来るのではないかと思います。